

## みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月2日(水)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 利永集落センター
- 参加者数 : 【市民】21人、【市職員】市長ほか10人、【総計】32人

### ○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

### ○ 意見交換の内容

#### 【市民】

「地熱の恵み」は、国の地方創生事業で行い、国からの補助金でまかなうため、市の財政には何の負担もないと思っている。また、その収益を、これから進めるコミュニティ事業の資金にする計画も行っている。

先日の新聞で、事業を凍結するという報道があったが、いつまで凍結するのか。我々の希望としては、できるだけ早く凍結を解除し、「地熱の恵み」の着手をお願いしたい。

<市長>

地熱発電は手段であり、その恵みを基金として積み立て、地域振興や子育て等に役立てようという狙いであった。

地熱発電について、色々な意見があるのは事実である。山川とする地熱発電と、旅館街がある十町等とする地熱発電とは基本的には違うと思っているが、見る角度によって意見は様々である。反対運動が起り、報道でも色々と地熱発電の影響が紹介されているが、心配を払拭する努力をする。

そして、市民への説明を詳しくしながら、市民の声を聞いた上でするようにということであったので凍結した。その間に説明をしながら、市民の理解を得た上でやらなければならないと思ったわけである。

また、企業が、指宿で地熱発電をしたいと目を向けている。しかし、それを闇雲に認めるわけにはいかない。当然、補償や責任の面で高いハードルを設けた上で市は同意するが、法に触れたり、色々な問題がない限りはノーと言えない。後の判断は、県が審議をする。

今後、最も大変なことは、働く人が減ることである。働く人が減ることで税収が減り、福祉や教育等に使えるお金が少なくなる。市が経営感覚を持って事業を行い、その利益で市民福祉に努めるということが一番肝心なことであった。この事業の目的や、どのように進めたら良いか皆さんの意見を聞きながら、凍結という問題をどうするのかを考えていきたい。時期というのは、皆さんの同意・理解を得た上でということが第一の条件だと思う。

#### 【市民】

地熱の説明は、区長会やこのような会場等で4回ほど聞いている。議会では説明不足という話も聞いたが、地域によっては説明がちゃんとされていると思っている。

今日も、区長会があったが、地熱が再開されるのを待たなければしょうがないという話しであった。

<市長>

例えば、指宿のホテルに来た外国人観光客のうち、大浴場に入るのに2割にも満たない。なぜかと言うと、日本の温泉文化が合わないためである。刺青のある外国人は非常に多いが、刺青のある人は入るなどとなっている。あと一つは、水着を着て入るという文化が強い。台湾の北投温泉では、水着を着た人がお茶を飲んだり、話をしたりしながら、海水浴気分である。今後、外国人が、指宿の温泉に入れたいようでは申し訳ない。イスラム教徒も、裸では入れない。観光客に指宿の温泉を楽しんでもらいたいということも、一つにはある。

あと一つは、地熱を使って、農産物の6次産業化を図る。マンゴー等を作っている方々の燃費はすごいので、そのようなものに活かす。そして、農業生産法人のようなものをつくり、台風等に左右されず、安定した収入を得られるようなものをつくりたい。

そのような話をしていたら、水産業にも活かせるのではという話になった。冷凍かつおの解凍をすることができるかもしれない。また、外港に足湯や温泉があれば、山川港に海外からの巻き網船が入るかもしれない。

色々なことを考えた上で、この事業は進めなければならないが、その前提は、市民の意見を集約することだと思っている。慎重な方々も、その良さはわかっているが、ホテルや環境に色々と問題があった場合はどうするのか。この事業は、反対・賛成という対立の構図を生んではいけない。お互いの問題点を共有して、解決する方法をしなければならない。地域を二分するような問題になると、地域で一緒になって、仲良く盛り立てようとする地域創生の流れに逆行することになる。この事業が地域を陰悪にすることを恐れて、私は凍結という決断をしたわけである。非常に苦しかった。

【市民】

山川庁舎の建替えについて区長会で話し合ったが、南海トラフの大津波のことを考えると、山川高校周辺が良いのではという意見もあった。市の方では、複合施設というような考えであると聞いたので、なおさら国道沿いが良いのではという意見もあった。また、山川地域の中央辺りで良いのではという意見もあった。山川の区長からは遠くなるという意見もあったが、車で5～10分も走れば着く。市は、どのように考えているのか。

<市長>

現実的に、早期に取り組まなければならないと思っている。地震でもあれば、市の指定する避難場所になる。2～3、意見を聞かせてもらいたい。

【市民】

あのような庁舎であるし、建て替えるとなるとちいかというふうを考える。

<市長>

来年から、具体的な設計に入らないと恐らく間に合わない。耐震など、色々な問題もある。いつするのか、どこにするのか、これは避けて通れない。私は、役所の機能だけを持った庁舎は作るなど言っている。そこに子どもたちが遊びに行き、児童クラブがあり、図書館があり、コンビニがあったりして、複合的な施設を造ると、お年寄りも子どもも、みんな集まる。そういう庁舎を考え、区長にも意見を聞いてもらいたいと伝えた。

石巻市役所の1階は全部店になっており、2階からが庁舎である。4～5時以降になると、子どもたちが帰りに寄る。子どもたちのスペースもあり、そこには世話をしてくれる方々もいる。すると、仕事が終わった家族が迎えに来る。今後、山川庁舎は、他に例のないようなユニークな庁舎にしたい。今、具体的な検討に入っている。

<山川支所長>

市長の話したような内容が、実現できればと思っている。ただ、山川庁舎の建替整備については、開聞庁舎、指宿庁舎、市全体で考えなければならない問題である。区長会で話を聞いても、十人十色の意見が出される。今後、検討会といったような組織をつくり、財政の問題や、防災上の問題も考えながらスピード感を持って取り組んでいきたい。

<市長>

学校と庁舎の問題というのは、山川地域にとって非常に大切なことである。石巻市役所はテナン

ト料を取って、1階を貸し出している。役所という観点だけで考えず、お金儲けができる施設を造ったらどうかと言ったのはそこである。広く皆さんに意見を聞きながら、一番の問題は、役所の形ではなく、場所をどこにするかということだろう。山川地域の方々に、色々な調査をしながらやらなければならないと思っている。建設後60年が経過しているので、耐震改修をしても20年しかもたないかもしれない。そうすると、山川庁舎は建替しかないと思っている。

また、意見を聞く場を設けて、色々な意見をいただきたいと思う。ただ、これは早急にやらなければならない事業だろうと思う。

#### 【市民】

指宿庁舎に行ってまず思ったのは、海拔6メートルで、地震による津波があった場合に、本庁舎は活動できなくなる。そうした場合に、第2の庁舎はどこになるのか。絶対に津波がないということはない。

<総務部長>

南海トラフの地震による津波高は、指宿では最大で5mと言われている。しかし、これは最初の到達点であり、後ろから押されてくると3倍以上になるとされている。そのような津波が来た場合には、指宿庁舎も危ないということになる。

現在、指宿市では、指宿消防署や山川・開聞分遣所とも連携をとりながら、対策本部を移動したりしながら対策をとれるようにと考えている。

#### 【市民】

他の地域も同様であると思うが、利永地域も若い男女の独身の方が多く、子どもが少ないということにもつながる。今でも、男女の出会いの場を設けているとは思いますが、例えば、合併前の指宿市、山川町、開聞町、それぞれの地域で開催したり、男性にはビールや焼酎、女性にはフルーツやショートケーキといった参加賞があれば、さらに参加者も増えるのではないだろうか。

<総務部参与>

青年会議所や女性連が、独身男女の出会いの場を創出するイベントを企画・開催している。先日も山川港で、桜島フェリーを借り上げて、男性が138名、女性が142名、計280名で婚活イベントが開催された。その中で3組のカップルが誕生するなど、良かったのではないかとと思っている。女性連の世話焼きキューピッドや、菜の花商工会青年部のプロポーズ大作戦 in 指宿ベテラスなど、過去にも行われている。今後も、そのような出会いの場を創出できるよう考えていきたい。

<市長>

利永で若いカップルを増やすためには、例えば、農業団地生産法人をつくり、そこで働く人には住宅を無料にし、働く時間は子どもを無料であずかる場もありますよとすれば、都会で生活が大変なシングルマザー等も来るかもしれない。どのような形で人を呼び込むかという一つの事業として基金を積んで、子育てのしやすい環境等をつくろうという方法を考えていた。

利永地区は、子どもが少なくなって学校も大変だ。夜の迎えもどうするのか。どのような方法があるのか知恵を出すときだろうと思う。地方創生という形で、真剣に考えていかなければならない。

#### 【市民】

台風16号による被害で、バス道路は通行できず、迂回路で生活している。他所から人を呼び込んでも、交通の面で不自由ではないだろうか。尾下には、

<市長>

尾下地区の道路の整備については、まだ危険箇所も多いと思う。水道、道路といった生活インフラは、尾下地区では一番大切だろうと思う。優先的にしなければならないと考えている。

#### 【市民】

尾下には利永尾下線と林迫線の2線があるが、この前の台風で両方とも通れなくなった。集落の方々や市の協力で、大体、一日で林迫線を通れるように倒木の処理をすることができた。もし急患が出た場合には、船で池田の方に運べばと考えていたが、電気が2日程こなくて、船自体をクレー

ンで上げるため出すこともできなかった。

昨年度、危機管理課にも話したが、尾下に消防車が来ても、水かさが少ないときには池田湖にホースが届かない。できれば、池田湖に車が下りれるように、2mほどコンクリートをうつなど整備をしてもらいたい。

<市長>

安心した生活、安全な生活というのが、一番大切です。暮らしと安全は、議会と執行部の責任でもあります。議員と一緒に取り上げていただけると、みんなで解決できると思う。

#### 【市民】

市町村合併をして10年になるが、やっと校区公民館を校区内に設置できるような動きが出てきたようである。実現するようお願いしたい。

旧指宿市内は校区公民館という建屋があるので、同じような形でできればと思う。しかし、学校の統廃合や小中一貫校という案も出ているようであるので、建屋を造ってもらっても無駄になるかもしれない。

<教育長>

利永校区と徳光校区には市の施設がなかったため、今までは多目的研修館内に設置していた。しかし、校区の一番近い所にあつて勉強する場、地域づくりを語る場、そのような施設が必要であるということで色々と検討した結果、この集落センターを校区公民館の事務所、また学習室等としてお借りできないだろうか。徳光校区も、学校の近くに公民館があるので、校区の館長や区の皆さんに相談しているところである。地域の皆さんの理解を得ながら、できれば来年の4月からは、そのような形でスタートできるように努めたい。

<市長>

公民館は、地域づくりの核であり、元気の源である。その公民館が校区内にないことは申し訳なく思う。

鹿児島市は、学校の中に公民館がある。放課後児童クラブになる所もある。授業が終わると、公民館や放課後児童クラブにかばんを置いて、勉強をしたり、校庭で遊んだりして待っていると、家族が迎えに来てくれる。学校だと、駐車場の心配もない。児童クラブの委員長は公民館長や区長、副委員長は校長、子ども会の会長である。そのように、地域でやっている。公民館の1階は、土曜日は開放して、両親がいない子どもたちはここに来ると、大学生が勉強を教えに来たり、体操を教えに来たり、校区の青少年健全育成事業として行っており、働く人も安心・安全である。私は、そのようなものを作りたい。

そのためには、今後、学校をどのようにするのか。学校の存続そのものではなく、そこはずっと生き続ける。そこには、児童図書もあり、会議室もあり、調理場もある。そうすると館になる。そのようなものを造りたいという夢があったが、学校をどうするのか、児童数はどうなるのか、地区をどうするのか、色々な課題がある。どのような形が良いのか本気で話をしないと、子育てがまさしくできない。地域の拠り所がない、間借り状態というのは避けなければならないと、個人的には思っている。庁舎建設を含めて、校区公民館をどうするという工程を明らかにしなければならない。教育長を中心に、皆さんと具体的に検討する場をつくりたい。

#### 【市民】

始良市や薩摩川内市には高規格道路ができ、鹿屋にはバイパスができるなど道路が良くなっている。指宿も道路の改修ができれば、定住も進むのではないだろうか。

学校が避難所になっているが、障害者用トイレや洋式トイレもなく、不便なのではないだろうか。また、水道や毛布、備蓄する食糧など心配な面がある。検討して少しでも改善してもらいたい。

先日の竜巻で、ガラスにひびが入っている。公共の施設であるので、改修を早めにしてもらいたい。

<市長>

子どもたちの登下校時の安全確保という面からも、道路整備は必要だと思う。国の力をいただきながら、訴えていかなければならない。

避難所、障害者トイレについても、その通りである。出水の米ノ津東小の体育館の玄関には、毛布や水、食料もある。体育館の運動をする部分は文部科学省、玄関等は国土交通省が避難所として無料で整備している。シャワーや畳、空調も整備されており素晴らしい施設である。指宿でも検討したが、大きな川があったり、土石流が心配な所は、国土交通省の補助事業でできるが、それ以外の所ではできなかった。今後、教育委員会と協議しながら、できることはやらないといけないと思う。

<総務部長>

毛布については、社会福祉協議会から、足りない場合には赤十字から借用することになっている。現在、防災計画の見直しも行っているところである。また、要支援者等の受入れについては、つい先日、市内の老人福祉施設の方々と協定を結び、災害が起きた場合には、緊急で受入れをしていただけるようになった。トイレや資材等については、防災計画の見直しの中で検討していきたい。

### 【市民】

この前の台風で、校庭の端のフェンスが道路に倒れるような状況である。子どもたちも危ないと思うが、修理はいつ終わるのか。また、台風被害の修理が終わっていない学校は、指宿市内で他にもあるのか。

<教育部長>

台風 16 号による各学校の被害は、相当のものがあつた。修繕にかかる費用については、予算を獲得したところである。利永小学校のフェンスについては、倒れかけていたものを起こした状態にしてあるが、新しく建て替えるよう設計段階で発注はできていないが、近いうちに整備できる予定である。

他の学校も、倒木については運動会も近いことから早急に対応した。ただ、窓ガラスの割れ等、簡単に対応できるものについては修理をしているが、大きなものについては順次していくことになっている。

<市長>

色々な課題がある。迅速にできない面もあり、非常に申し訳なく思う。可能な限り、行政も対応したい。特に、利永地区は連携をとりやすい地域であると思うので、区長さんに相談したりして、意見や要望を出していただきたい。

### 【市民】

校区公民館を地元という声をよく耳にする中、地域から離れた所で、肩身の狭い思いをしながら公民館主事の仕事をしている。社会教育事業は、地域の方と一緒にやっていく仕事であり、皆さんの協力をいただきながら、また不便なところは我慢していただきながら、やってくることができたので感謝している。

平成 29 年度からは地元でやってもらえるような方向であり、楽しみにしている。私も地元の間人であるので、地元の方が期待するかたちに行政が対応してくれることを嬉しく感じている。今後も、よろしくお願ひしたい。

<市長>

校区公民館を造るのは、お金があれば簡単である。お金をつくるのは簡単である。それは、病院に 5 回行くのを 4 回にしてもらえれば、医療費が 2 割、10 億円減ることになる。今、医療費は足りない状況にあり、一般財源から入れなければ国保の運営ができない。一般財源から、1 年間に 10 数億円を繰り入れた。もし、それがなければ、全ての公民館ができる。

そのようなこともあり、健幸のまちを目指している。医療費を削減することによって、その分を福祉や教育に使うことができる。私が市長になったときは、基金が 1 桁であった。もし、インフルエンザが一度大流行すると、1 億の医療費がかかる。もし、台風が来たら、何千万という費用がかかる。そのための基金を、20 億から 30 億積もうというのが、私の考えであった。

指宿は、一人当たりの国保が 40 万円を超えている。鹿児島県で少ない西之表市は、30 万円くらいである。10 万円違う。国保の対象者が、1 万 5 千人くらいであるので、15 億違うということになる。なぜ医療費がそこまでかかっているのかを分析しながら、健幸のまちを目指している。健康

であることは、社会貢献である。健康であるために、運動をしていただきたいと思う。